

お忙しくても、約 2 分間で読めます

ハートフル・ワード (心からの言葉)

山内公認会計士事務所

TEL 098-868-6895

FAX 098-863-1495

経営者への活きた言葉

賞味期限は人間にも当てはまる 鍵山 秀三郎 (イエローハット相談役)

1. いまの日本人は、食物の賞味期限にとっても敏感になりました。かつての日本人はもっと大らかであり、自己の判断と責任において選び取っていました。他者の決めた基準に頼らないことから、偽られることもありませんでした。いまは他者の基準に頼り切っているため、偽られることも多くなりました。決められた期限を偽ったり、規則を破ったりすることは許されませんが、そのような恥ずべきことをやらざるを得ないところまで追い込む消費者側も、その姿勢を改めるべきでありましょう。
2. 賞味期限は商品だけにあるものではなく、人間にも当てはまります。期限は年齢によるものではなく、百歳を越えてもなお、まだ十分に余裕を残している人もいれば、20 代で期限の切れてしまった人もおります。人間に与えられた期限の基準は、その人が他の人から信頼され、かつ社会に貢献しているかどうかにかかっています。百歳を越えても、多くの人々に頼りにされ、お手本となる生き方をしておられる方は、期限を十分に余す人です。
3. 一方、「自分さえよければ、それでよし」とする生き方をしている人は、期限切れといえましょう。

(参考:「致知」2008 年 3 月号)

経営者のための経済学

標準的な経済学は間違い

1. コストを支払って他人に利益を与える行為を「利他的」という。反対に他人に与えるコストを考えないで自分の利益だけを考えるのは「利己的」だ。利己的なら物事は 100% 確実だから、標準的な経済学はそれを合理的な行動ととらえる。しかし、昨今、人間の利他的な行動の研究は、大きな注目を集めている。その理由は「人間は必ず合理的で利己主義的な行動をとる」という標準的な経済学の大前提が間違いであり、人間は利他的な行動をとるという反証がたくさん出てきたからだ。
2. 人間が本当に利己的な非協力行動ばかり繰り返していたら、とうの昔に人類は滅びていただろう。標準的な経済学の説明とは違って、最近の生物学や進化心理学では、人間には利他的行動を促進する「人間性」が、もともと備わっていると考えられている。共感性を持つ人は、他人の悩みや喜びを感じ取ってしまうため、相手を悲しませる仕打ちができなくなり、相手について親切な行動をとったりすることになる。それが利他的行動の源であり、共感性を持ち環境に適応した「税金」として、人は利他的行動をとると考えることができる。

(参考:「週刊東洋経済」:2007 年 12 月 15 日号)

新規成長分野

ポスト京都とビジネスチャンス

1. 地球温暖化対策は、世界規模での喫緊の課題となっている。今年、先進国における温室効果ガスの排出削減を定めた京都議定書の第 1 約束期間入りの年である。先進国全体での目標として、2012 年までで、1990 年比 5% の排出削減となっている。また、昨年 12 月 3~15 日に、インドネシアのバリ島で、13 年以降の国際的な取り組み (ポスト京都) などを議題とした COP13 が開催された。COP とは、国連気候変動枠組条約の締約国会議の略称で、数次は開催回数を表している。
2. 日本政府も、今後、国内の温暖化対策を進めているとみられる。温暖化対策ビジネスでは大手企業だけでなくニッチ (すき間) 分野の競争と事業展開のスピード感を持ったベンチャー企業にも活躍のチャンスがある。特に 2010 年ごろに向けて市場が急速に立ち上がる燃料電池、バイオ燃料など、今後先陣争いが本格化する。

(参考:「野村週報」2008 年 2 月 4 日号)

古典に学ぶ

競躁の念

「凡そ仕途に在る者は、多くの競躁の念あり。けたし此の念ある時は、必ずすすむ能わじ。此の念を忘るるに至れば、則ち忽然として一転す。事物の理皆然り」

(訳) 官に仕えている者の多くは出世を競い焦る心がある。この心のある間は却って昇進しないものである。競躁を忘れて懸命に職務に専念していると突然一転して出世するようになる。物事の道理はすべてこのようなものだ。

(参考:佐藤一斎「言志四録」:PHP 文庫)